

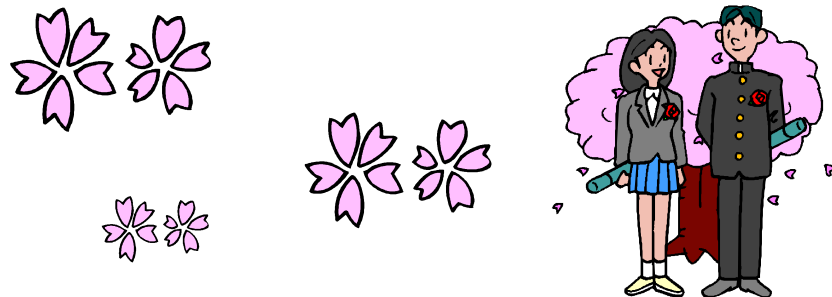
有訓無訓（心に残った言葉）

景気の悪さが深刻になってきました。「熱狂から恐慌へ」「世界のバブルは弾けた」「金融資本主義の終焉」今までのビジネスが全否定されんばかりの言葉が巷に溢れています。

確かに今、我々が頼ってきた経済の「常識」は大きく揺れています。しかし、常識とは何でしょう。平時ならば「深く考えなくても、それほど問題がない」こと。常識が変わる時は「思考停止を止める」時でもあります。これまで自明として疑わなかったことを、自分の頭で考え抜いてみる、良い機会なのである。考える際のヒントは、まず「これまでの常識の対峙を見る」ことだと思います。本当にそうか、疑ってみるのです。

今、我が国の金融業界や行政からは、1400兆円超と言われる個人金融資産の生かし方が出てきません。過去の常識の復活を祈って、不況よ、早く去れ、とひたすら耐えている。そんな印象を受けます。それでは新しい、成長の切り口は見えてきません。「今は耐えるしかない」といった、視野狭窄が一番怖いのです。それは従来、働くべき方向がはっきりしていた時についた癖かもしれません。マネジメントを担う人がそこに落ち込んではいけません。常識を疑い、対峙をすることで、これからの立つべき位置を見定め、情熱と志を持って組織を導いてほしいのです。

（花王元会長 常盤文克 談）



宏と語る小さな小さな  
ティーパーティー開催中！  
お気軽にお電話下さい。

行政相談もこちらへ！  
ご意見をお待ちしています。

いん なみ ひろし  
印南 宏  
後援会事務局 7184-2860  
自 宅 7189-1598  
我孫子市布佐平和台7-1-18

ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>  
E-mail [innami@mqd.biglobe.ne.jp](mailto:innami@mqd.biglobe.ne.jp)

印南 宏後援会 会報 2009.3.20 42

「子供泣かすな、来た道だ。年寄り笑うな、往く道だ。」

我孫子市の65歳以上の高齢化率は、すでに21%を超えています。4年後には確実に4人に1人は高齢者となります。千葉県内に56市町村が存在しますが、その中で31番目に位置しているのが我孫子市です。けして高齢化率が高い方ではありませんが、東葛飾地域6市（柏、松戸、流山、野田、鎌ヶ谷、我孫子）では一番の高齢化率となっています。

市内115町丁では、新木野2丁目が高齢化率40%でトップ、2位には湖北台6丁目が39%です。高齢化率30%を超える町丁が25存在しています。急速に高齢化が進んでいます。

そんな中、新年度予算では、敬老祝い金や結婚50周年記念祝賀会など高齢者をターゲットにした事業の廃止、見直しが行われ、全体では「削減し易い事業を削る」そんな傾向が顕著になった予算編成となりました。

敬老の精神、長生きを敬う、日本的な良さが無くなっていくような悲しい気持ちになりました。

平成21年3月 定例市議会終了！（新年度予算が決定）

会 期：2月26日（木）～3月19日（木） 22日間  
（一般質問は3月5日（木）～3月9日（月）、14名の議員が登壇）

予算審査：3月16日（月）～3月18日（水） 3日間  
印南は会派を代表して予算審査特別委員。  
（一般会計は319億2千万円、前年度当初と比べ6億1千万円1.9%の増額）

『住んでよかった』そして『住んでみたい』と言われる街に

新年度予算:当初予算の歳入は、社会的な景気悪化や団塊世代の退職者増などで、全体の約6割を占める市税が181億円7千万円で、前年度比3億5千万円の大減となり、例年になく厳しい編成となった。不足分は市有地売却で約2億円、減債基金から約2億円、財政調整基金から約1億円をそれぞれ確保・繰り入れをして財源にあてた。

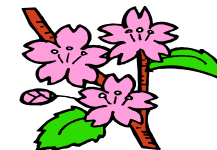
歳出は、経常経費5億円の削減目標額を各部課に割り当て、聖域なき見直しに努めた。結果的には目標の5億円削減はできなかったが、社会保障費などの「民生費」拡大を4億5千万円に抑えながら、総務費、土木費、衛生費を軒並み減額した。

重点施策では、児童医療費助成事業として小学校1～3年生の通院分を新たに助成する為の予算2千7百万円を確保。私立保育園の施設整備の補助に約2億3千万円、(仮称)我孫子駅前インフォメーションセンター整備事業に約5千万円、景気対策として市商工会が発行する1億円分プレミアム付き商品券のため、10%のプレミアム分の1千万円と事務手数料5百万円を市が負担する。他の新規事業として、小中学校の校舎大規模改造、白樺文学館の運営、杉村楚人冠邸の保存と活用などが盛り込まれている。



予算審査の争点:新年度、本格的な見直し予定となっている基本構想は、すべての計画の基となっている市の最上位法、安易な見直しに反対する意見が多く出された。また、我孫子駅南東地区、約32億8千万円を投じて行う都市再生整備計画(21年度～25年度)のシンボリックな事業、(仮称)我孫子駅前インフォメーションセンター整備について、センターの機能、役割、運営方法について明確な方針が出来ていない。コンテンツがない段階で建物のみ先行して建設する市の姿勢に疑問の声が多く上がった。市長は「早急に整備方針を明確にしたい。この事業の着手は市議会の所管常任委員会(環境生活)に諮り、了解を得ながら、事業を進めていく形にしたい。」と答弁、予算はこのまま認めて欲しい旨、訴えた。また、聖域なき見直しによって、削減された事業は敬老祝い金や福祉手当、障害者の助成金の削減など、簡単に削減しやすいものだけを削減し、人件費やその他、補助金、負担金などは削減されていない。予算編成の方法にも疑問の声が上がった。新年度予算は本会議において賛成17、反対10の多数可決で成立した。

## 我孫子あれこれ



### 我孫子市議会、定数24人に削減!!

3月議会の最終日、我孫子市議会は議員定数を現行の28人から24人に削減する条例案を賛成多数で可決した。

2011年11月に任期満了となる市議選から適用される。2007年の選挙は定数30人を28人に減らし実施。その後も議会改革について話し合いを行っていた。

### 定額給付金事業

我孫子市は2月16日、定額給付金給付事業本部を設立、併せて専任職員3人の「定額給付金推進室」を設置した。国の第二次補正予算関連法が3月4日成立。市では給付総額を約20億4千万円と試算。4月中に通知し、5月中に給付できる体制でスタート。

併せて、定額給付金の活用策として、額面より安く購入できるプレミアム付き商品券の発行を我孫子市も計画している。我孫子市は商工会と連携して10%のプレミアム商品券を1億円分発行することを決定。



### 子育て応援特別手当の支給

現下の厳しい経済情勢において、多子世帯の子育て負担に対する配慮として、第二子以降の児童について、一人当たり3.6万円を支給する国の事業。支給対象の子は、平成20年度において小学校就学前3年間に属する子。すなわち、平成14年4月2日から平成17年4月1日までの間に生まれ(平成20年3月末において3～5歳の子)であって、第2子以降である児童が対象となる。支給は申請手続きが必要となる。我孫子市は2100人が対象。

## 是非、ご覧下さい!!

印南宏が代表を務める

「あびこ21」ホームページ <http://abiko21.exblog.jp/>

我孫子市公式ホームページ <http://www.city.abiko.chiba.jp/>

